

年度当初				評価結果（中間評価）		評価結果（最終評価）			
評価項目	具体的項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	経過・達成状況	評価	改善方策
4. 広報連携力の強化	積極的な広報活動による地域や中学校からの共感の促進 育友会・同窓会との連携促進	・地域の方や各中学校関係者に本校の教育方針・教育内容が十分理解され評価されている。 ・全職員が本校の教育方針・教育内容について適切な説明をすることができる。	・本校の教育方針・教育内容について、中学校教員や生徒、保護者の理解が不十分な点がある。 ・管理職だけでなく、多くの教員が中学校訪問を行い、本校の教育について説明をしている。	・本校のHPを充実させ、教育活動を適切に外部へ情報発信できるよう努める。 ・学校案内を刷新し、中学校への広報力を強化する。 ・中学生を対象とする高校説明会を充実させる。 ・中学校主催の説明会や進路学習の機会を利用して、教員が積極的に中学校に出向き、本校への理解が深まるよう工夫する。 ・本校へ学校訪問等に来られた外部の方への説明を、キャリア形成部や企画推進部以外の教員も行き、発信能力の向上に努める。	・HPの更新は適切に行われており、4～8月の一日平均アクセス数は、昨年比20%増の1379件であった。 ・学校案内が刷新され、印象に残る構成となった。 ・高校説明会で中学生とチューターとの座談会を設けた。中学生にも好評であった（97%が「分かりやすかった」と回答） ・中学校主催の説明会には16名の職員を派遣した。 ・学校訪問などでの来校者に対する説明は、必要に応じて適任者で対応している。	A	・HPの更新はほぼ適切に行われており、4～12月の一日平均アクセス数は、昨年比20%増の1259件であった。またHPソフトの更新に着手した。 ・学校案内が刷新され、印象に残る構成となった。 ・高校説明会で中学生とチューターとの座談会を設けた。中学生にも好評であった（97%が「分かりやすかった」と回答） ・中学校主催の説明会には16名の職員を派遣した。 ・学校訪問などでの来校者に対する説明は、必要に応じて分掌担当者で対応している。	A	・先進校のHPを参考に、より閲覧しやすく、更新しやすい内容に改善していく。 ・学校案内の内容を毎年適切に更新していく。 ・体験入学の期日が他校の実施日と重ならないように調整する。 ・中学校に対する説明内容の共通理解を深めていく。
		・本校が各中学校の実態を十分理解しており、生活指導・学習指導等について、中学・高校の連続性がある。 ・中学教育を支援するため、本校が持つ教育資源を積極的に提供している。 ・本校の進路指導や大学の現状に対する保護者の理解が深い。	・倉吉東中学校と「スクラム教育推進事業」を行い、英語・数学における連携を深めているが、全教科・領域の連携に至っていない状況にある。 ・「中学生英語ブラッシュアップ講座」を実施し、中学レベルを超えた英語力の育成を支援している。 ・「中部地区小中学校・高等学校連携推進事業」によって英語・音楽・体育の教員派遣を行っている。	・倉吉東中学校との「スクラム教育推進事業」を充実させるとともに、公開授業等を積極的に利用して、中高連携の促進に努める。 ・「中学生英語ブラッシュアップ講座」への参加拡大を促進すると同時に、中学教員の参加（参観、ティームティーチングなど）を呼びかける。 ・部活動でも中学と合同練習を行うなど、可能な範囲で交流を行う。 ・中学校出前授業に積極的に応じる。	・実施回数は昨年並みだが、アンケート結果を基に中学生の興味・関心に沿った教材を精選し、教育効果を上げる工夫を行った。 ・「英語ブラッシュアップ講座」の参加希望者は、87名である。（昨年度88名） ・ソフトボール部、バレーボール部、バスケットボール部、卓球部、剣道部、サッカー部などで、中学校との合同練習を行った。		・アンケート結果を基に中学生の興味・関心に沿った教材を精選した。アンケートによると授業については中学生には概ね好評で、学力向上に寄与した。また、相互授業参観を実施し、中高連携を深めた。		・さらに教材・教育方法の充実を図るとともに、アンケートを基に受講者の学習意欲の向上策を検討する。
5. 定時制教育の充実	積極的な生徒指導 進路保障と学力の向上	・自己の進路目標を決め、その実現に向けて主体的に学習や行事等に取り組んでいる。 ・課題に真面目に取り組み、提出物の期限が守られている。 ・わかりやすい授業と個々の実態に応じたきめ細かい指導がなされている。	・3年次生11名のうち、現在、進学希望3名、就職希望4名、未定者4名だが、進学・就職希望者にしてもまだ流動的で、具体的な将来像を描いたり、進路を決めかねている生徒が多い。 ・中学校で不登校経験を持つ生徒や、進路変更で転編入した生徒が多く、まず登校させレポートを提出させることの指導が必要な生徒が多い。 ・基礎的な学力・能力が不足しているので、理解するのに時間がかかる。	・ハローワークやキャリアアドバイザーとの連携を密にし、正規採用に向けて職場訪問や書類作成・面接指導等を計画的に行う。 ・卒業生等との座談会や進路講演会に加え、社会人としてのマナー講習会等を効果的に取り入れ、進路意識の向上を図る。 ・レポート作成のための時間や場所を設定したり、個別指導を行う。 ・定期的に情報交換会を持ち、生徒個々の状況を職員間で共有して連携した指導を行う。 ・授業公開・授業研究への参加者を増やしたり、他校視察をして授業改善に生かす。 ・1年次から基礎学力定着の学習を取り入れるとともに、課外を計画的に実施し、進学・就職それぞれの生徒に対応した指導を行う。	・9月時点の就職試験応募者は2名で、進路担当者やキャリアアドバイザーとも連携を密にして指導を行い、他の就職希望者の指導も継続している。 ・昨年度に継続して夏季休業中の登校日を実施し、卒業生との座談会を開催した。座席を工夫したり、卒業生からの質問も取り入れることで、より卒業生との交流が増し、進路を考える上で有意義であった。また、今年新たに取入れた、マナー講習会も進路意識を高める良い機会になった。 ・1年次生徒を中心に、レポート作成のための時間を設定して指導したり、国数英のテキストを準備して授業以外でも基礎力の定着に向けた取組を始めたが、まだ機会が少ない。 ・授業公開が実質7月からになってしまい、参観者が増えなかった。各自の視点に加えて共通テーマとして「基礎的内容の定着」を設定して参観を行い記録を職員間で回覧することで、参考になる部分の共通理解を深めた。 ・夏季休業中に計画的に国数英の課外を実施した。欠席も少なく進学に向けて意欲的な生徒が増えている。 ・職員間で情報交換を密にし、保護者と連携して欠席の多い生徒を粘り強く指導したが、長期欠席者が増えている。スクールカウンセラーによる1年生との全員面接や、心のケア支援をはかるために臨床心理士との個別面談を継続している。 ・2年次生徒の首都圏研修を12月に企画し、進路考えた見学先等について検討を始めた。 ・囲碁・陸上で全国入賞し、卓球、バドミントンでも全国大会に出場して貴重な体験を積んだ。	B	・卒業予定者は全員が就職希望に進路変更した。現在正規採用は2名、今後ハローワークやとっとり若者サポートステーション等の外部機関と連携しつつキャリアアドバイザー等による指導を継続する。 ・卒業生との座談会に加え、今年度は新たに企業から講師を招いてマナー講習会を実施した。また、定時制を卒業し、現在企業で活躍されている方を招いた講演会では、自分の将来を考える良い機会となったという感想を持つ生徒が多数あり、進路意識の向上に有意義であった。 ・放課後のレポート指導により、1年次生の取組や提出状況が良くなった。 ・毎週の情報交換会に加えて状況に応じた情報交換を実施して共通理解を深めたので、生徒の状況把握や個別指導を素早く行うことができた。 ・「自分のつまづきをどのようにして気づかせるか」を視点の一つとして授業参観を実施し、後期は参観回数が増えた。先進校視察では人との関わり方をテーマに授業参観を行い、報告会を実施して職員間の共有を図った。 ・長期休業中等に課外を実施し、2年次生の参加が増えた。数学・英語検定、漢字等のテキストを活用して基礎学習に取り組んだが、まだ実施回数が少ない。 ・電話連絡や家庭訪問・職場訪問を積極的に行い、保護者と連携しながら個別指導を継続したが、欠席の多い生徒や休学者が減らなかった。スクールカウンセラーによる全員面談やhyper-QU結果を活用した担任面談、臨床心理士や精神保健福祉士との個別面談も取り入れて、通学意欲の向上を図った。 ・研修旅行は計画通りにきまり良く行動できた。見学や班別研修で大いに刺激を受け、自分たちの進路を改めて考える良い機会となった。	B	・各学年に応じた進路指導を、キャリアアドバイザーやハローワーク等とも連携して計画的に実施する。特に、3年次生は正規採用に向けて職場訪問や書類作成・面接指導を行う。 ・座談会や進路講演会など効果の高かった取組を継続して進路意識の向上を図る。 ・退学者・休学者を減らすために、職員間の情報交換をさらに密にし、学習時間の状況など細かな点も共通理解を図る。また、個々の生徒の実態把握や保護者との信頼関係を構築するために家庭連絡や職場訪問を継続し、保護者と連携した粘り強い指導を行う。 ・自分の進路を考えた課外参加者がまだ少ないので、進学・就職それぞれの生徒に対応した指導を行う。 ・基礎基本の定着や人間関係づくりにおいて、先進校視察で学んだ「ピアサポート力の育成」や「基礎基本の定着」「人間関係力の強化」などの手法について、本校なりの方法を工夫し実践する。 ・2年次生首都圏研修先を更に検討し、事前学習を深めてより効果を高める。 ・生徒が主体的に取り組む仕掛けを工夫して生徒会活動をより活性化し、連帯感や達成感を持たせる。

○ 評価基準

- A 本校の現状を大幅に改善し、目指す姿にほぼ到達した。課題は少なく、今後改善していく見込みがある。数値的目標を掲げた項目では、最低でも80％以上になっている。
- B 課題はあるが、改善に向けた取り組みが効果を上げつつある。現状に満足する状態ではないが、一定の成果があり、今後改善していく見込みがある。数値的目標を掲げた項目では、60％～80％の範囲内になっている。
- C 課題を解決するにはまだ多くのステップがある。一定の成果はあがっているが、さらなる努力が必要である。数値目標を掲げた項目では、40％～60％の範囲内になっている。
- D 改善に向けた具体方策の効果が上がらず、本校の現状が改善されていない。依然として課題が多く、今後の改善があまり見込めない。方策の全面的な見直しが必要である。数値的目標を掲げた項目では、最高でも40％未満である。